

疾病ハイリスクアプローチ「歯肉炎予防アプローチ」事業について

1 はじめに

本委員会では、幼児・児童生徒の口腔疾患の実態と問題点を把握し、その対策を図るため、ハイリスクアプローチの在り方について検討した。平成29年度は、昨年度に引き続き、減少傾向にあるむし歯に対し、依然として疾病罹患率の高い歯肉炎に焦点を当てモデル事業を実施し、その取組や成果について報告し合い検討した。更に、県内の学校に具体的な取組を紹介することで広くハイリスク・アプローチの啓発を行うことを協議した。

2 疾病ハイリスク・アプローチモデル校

(1) 対象

定期健康診断において以下の項目に該当する幼児児童生徒

- ① 未処置3本以上を有する者
- ② 歯垢の状態2の者
- ③ 歯肉の状態2の者

※これらの項目のうち、単独あるいは複数の項目を選択し、全校で40名程度の幼児児童生徒を対象とする。人数の調整により全学年としてもよい。したがって対象幼児児童生徒の未処置2本以下、歯肉・歯垢の状態が1になることも考えられる。

(2) 疾病ハイリスク把握フローチャートについて

日本学校歯科医会発行のハイリスク把握フローチャートを参考にし、学校の実情に応じて対象の把握をする。

(3) 連絡方法

- ① 指導の前に家庭に連絡する。(家庭へはハイリスクという言葉は伝えない)
- ② 12月末までに終了し、結果報告を提出

(4) 指導

① 保健指導（集団指導）

内容は学校歯科医と協議の上で決定し、養護教諭が行う。

学年ごとに分けて少人数で行うことが理想であるが、日程の都合で複数学年を一度に行ってもよい。

※あくまでもそれぞれの学校の実情に応じて、実施し易い方法で行うこととする。

② 保健指導（個別指導）

内容は学校歯科医と協議の上、保健室にて養護教諭が個別指導を行う。

③ 学校歯科医による保健指導

①②終了後に、全体指導を行う。(保護者参加型が望ましい)

(5) 今年度のモデル校と取組状況

口腔衛生委員会の委員の学校とする。幼稚園については、歯肉炎への取組は困難と思われるが、将来の生活習慣病予防の観点から実施することとする。

小 学 校：岐阜市立徹明さくら小学校、岐阜市立岩野田小学校、岐阜市立柳津小学校、下呂市立下原小学校、

高 等 学 校：県立岐阜城北高等学校

特別支援学校：県立大垣特別支援学校、県立関特別支援学校

幼 稚 園：岐阜市立岐阜東幼稚園

3 疾病ハイリスク・アプローチモデル校報告

1

岐阜市立徹明さくら小学校

対象 6年生（65人）

1 児童の歯・口の実態

本校は、給食後の歯みがきには、5年生からは歯ブラシとワンタフトを併用し、6年生になるとさらにデンタルフロスを併用し、歯肉炎予防を意識した歯みがきを実践している。しかし、5月に行った健康診断の6年生の歯肉炎罹患率をみると、今年度は67.7%、毎年65%前後という高い罹患率になっている。（歯肉炎「2」の児童はいない。）

今年度は、さらに徹底した歯肉炎予防の取組を、6年生を対象に行った。

2 取組の内容

5月・・・歯科検診後の歯みがき指導

検診時、学校歯科医が「歯医者さんからのアドバイスカード」に記入し、カードを見ながら歯科衛生士のみがき方指導を受けた。

6月・・・歯科指導

養護教諭と担任で指導を行った。歯肉炎の原因は歯垢であることへの理解、歯肉の観察の仕方、自分のブラッシングの課題を見つけるためにプラークテストを行った。その後、自分の歯に合ったみがき方を工夫するために、ブラッシングの時間を十分にとった。

7月・・・口腔内写真の撮影

昼休みを利用して口腔内写真を撮影した。

10月・・・臨時歯科検診と口腔内写真を使った学校歯科医からのアドバイス、委員会による歯みがき教室（プラークテスト）

7月に撮影した口腔内写真に歯肉炎の部分を明記したものを使用した。口腔内写真と学校歯科医からのアドバイス、歯みがき教室のプラークテストの結果が一目で分かるように、ワークシートを工夫した。

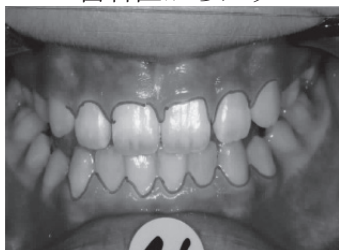
11月・・・臨時歯科検診と学校歯科医、歯科衛生士による歯科指導

臨時歯科検診では、歯肉炎が改善されているかをみた。

口腔内写真を見ながら自分の歯肉の観察を行った。デンタルフロスの正しい使い方を学習した。

2月・・・卒業前歯科検診

1年間の歯と口の健康に関する集大成という考え方に立ち、検診を行う。一人ずつ学校歯科医からメッセージをもらう。



口腔内写真（歯肉炎は赤線）



学校歯科医からのアドバイス



口腔内写真を見ながら歯みがき

1 児童の実態

岩野田小学校における、今年度のハイリスク対象者は以下のとおりである。


定義	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
未処置歯 3本以上	2	2	0	2	0	0
歯垢状態 2	0	0	0	0	0	0
歯肉状態 2	0	0	0	1	0	0

全校では、給食後の歯磨き指導を、年間を通じて展開している。ハイリスク対象者の定義にある歯垢及び歯肉に関しての対象者は1人（4年生）で、現在指導中である。

2 指導にあたって

今年度、「歯肉炎」に焦点を当てた疾病ハイリスクアプローチの在り方について取り組み、調査対象を「歯垢・歯肉 1」まで広げた検証を行った。本校では、学校歯科医による検診が年1回のため、5年生のみ検診を2回行い、変容や意識化といった観点で実践した。将来にわたって歯肉を意識した歯磨きを心がけさせたい。

3 保健指導（集団指導）

月	内容	指導形態	指導者		
4月	給食後の学級単位での歯磨き開始	給食後全校一斉	学級担任		
5月	歯磨き指導実施 特支：歯の汚れの原因と歯ブラシの使い方 1年：むし歯の原因・大臼歯の磨き方	学級指導 (歯肉の観察、歯肉炎の学習、カラーテストの実施) 	養護教諭 (担任) ★保健委員会の児童		
6月	2年：前歯の磨き方 3年：前歯の内側の磨き方 4年：小臼歯の磨き方 5年：歯肉の健康を調べよう 6年：歯の役割・噛むこと・唾液の働き 歯磨きキャンペーン				
7月	夏休み中の歯磨き指導（歯肉チェック） 歯磨きの意識調査1回目			学年集会 学級活動	養護教諭 担任
9月	夏休みあけ歯磨き開始			給食後全校一斉	学級担任
11月	歯磨きキャンペーン・昼の放送[歯について] 歯磨きの意識調査2回目	給食時・後 学級活動	★保健委員会の児童 担任		
1月	冬休みあけの歯磨き指導	給食後全校一斉	学級担任		
2月	歯磨きの意識調査3回目	学級活動	担任		

成果 ・「歯磨きに取り組んでいること」が当たり前になるよう意識化することができた。

・学校と家庭を結び付けた歯磨き指導により、自立した歯磨きができる児童が増えた。

4 保健指導（個別指導）

月	内 容	指導形態	指導者
6月	歯科医へかかる必要がある児童への指導 「健康なからだをつくる取組」開始	用紙配布と話 5年生	担任 養護教諭
7月	未受診児童への指導・歯磨き粉調べ[夏休み]	保健だより	養護教諭
9月	給食後の歯磨きの確認	各教室	養護教諭
10月	ハイリスクの児童への指導		
11月	歯肉炎予防授業 学校歯科医による歯科検診と講話	5年生 〃	養護教諭 学校歯科医
12月	ハイリスクの児童への指導 歯科検診の結果から指導 未受診者保護者への啓発	各教室 5年生 個人懇談	養護教諭 〃 担任
2月	ハイリスクの児童への指導	各教室	養護教諭

成果 ・ハイリスクの「未処置歯」の児童については、受診率が上がり、治癒の割合が増えた。

- ・歯や歯肉の健康＝からだの健康という意識が5年生に芽生えてきた。
- ・歯肉に関しての意識が高まり、歯だけ磨くというより歯肉も併せて磨く意識が徐々にできてきた。

5 学校歯科医における保健指導

実施 11月14日 5年生対象 歯科検診と講話

- ・講話「歯肉を意識した歯磨きについて」

成果 ・2回目の検診を実施したが、1回目より厳しく診断され、いい加減に磨いていても大丈夫と思っていた児童にとっては、磨き方を再確認する機会となった。

- ・歯肉炎にならないよう、歯垢がたまらないように磨くことは、自己の健康に直結するということや磨き方の具体を学んだ。



6 6年生の意識（アンケート結果）

◆1日何回歯を磨くか ➡ 0回 0% 1回 1.7% 2回 20% 3回 73.3%

◆歯肉を意識して磨くか ➡ はい 86% いいえ 14%

5年生で取り組み、その後どんなことに気をつけてみがいしているか？

- | | |
|------------------|----------------|
| ・歯と歯肉の間をみがく | ・歯肉を意識して優しくみがく |
| ・1本ずつ歯ブラシを当ててみがく | ・歯周ポケットもみがく |

7 全体を通しての成果と課題

○継続させることに傾注し、見届けと指導により、歯磨きに対する意識を変えることができた。前年度取り組んだ児童の方が意識は高く、継続性が期待できる。

○歯の健康をからだの健康ととらえさせることは、意義があった。

○高い意識の児童の口腔内は、どの児童もとても良好で、他の児童の模範となり、それを見て「私も正しく磨こう」という気持ちにつながった。

●5年生の歯肉・歯垢の結果については、前年度と同様に成果があったとはいええない。十分に取組方法そのものを工夫する必要性を改めて感じた。

●年2回の学校歯科医による全校歯科検診の実施については、連携が大切である。

1 保健指導（集団指導）

内容は学校歯科医と協議の上で決定し、養護教諭が行う。

ア 実施時期 平成29年6月、11月

イ 内容 （6月）・各学級において、染め出しを使った歯みがき指導

養護教諭が資料提供をした上で、学級担任が指導

・「ほけん通信」「食育だより」による家庭への啓発

（11月）・11月8日（いい歯の日）に合わせて、歯の健康についての掲示

興味関心を引くためにクイズ形式の取り入れ

ウ 成果 ・歯みがき指導については、学年ごとに口腔状態に応じた指導内容を設定したため、指導が毎日の実践につながった

・掲示物については、子どもたちが興味深くクイズに取り組み、歯について楽しく理解している姿が見られた

2 保健指導（個別指導）

ア 実践時期、対象者数 平成30年1月

4年生、6年生のハイリスク対象者

ハイリスク対象者…未処置歯3本以上

歯垢の状態2

歯肉の状態2

イ 内容 口腔状態に合わせた歯みがき指導、咀嚼指導（養護教諭、栄養教諭）

3 学校歯科医による保健指導

ア 実施時期、対象者数、保護者の参加の有無 平成30年1月18日（木）

5年生全員（108人）とその保護者

イ 内容 学校歯科医による口腔衛生に関わる講話

歯科衛生士による歯みがき指導

口腔状態を良好に保つために家庭で気をつけていくこと

<全体を通して成果と課題>

個別指導対象者の保護者に承諾を求めたところ、約半数からしか指導の了解を得られなかった。このことから、本校では家庭との連携を図ることが難しいと考えられるため、今後は集団指導を通して子どもの意識改善を目指し、家庭への啓発につなげていきたい。



1 児童の歯・口の実態（4月）

定期健康診断の結果・・・（全校） 歯垢1 → 33.3% 歯垢2 → 12.5%
 歯肉1 → 2.8% 歯肉2 → 1.4%
 未処置歯3本以上 → 16.7%

学校歯科医・PTA・学校が連携した歯科保健活動が、少しずつではあるが定着してきつつある。特に、永久歯のDMF歯数が6年生で0本、全校で0.04本であることや、全校の治療率の向上が見受けられる。しかし、歯肉炎や歯垢の付着の点から、清掃状況を改善する必要のある児童がまだまだ多い。年間計画を元にした集団指導や、個の実態に合わせた個別指導を次のように実施した。

2 保健指導（集団指導）

月	内 容	指導形態	指導者
4	・給食後の歯みがき 各クラスで開始（年間） 音楽（歯みがきソング）に合わせて磨く。	給食後学級指導	担任
	・あいうべ体操 各クラスで実施（年間）	朝の会学級指導	担任
6	・学童全国歯みがき大会参加 5・6年生 1. 歯ぐきのサイン、観察 2. 歯みがきの仕方 3. デンタルフロスの使い方 4. 未来宣言など	6年生学級活動	担任 養護教諭
	・歯のお話会（ブラッシング指導） 1年生 6歳臼歯の磨き方 2年生 おやつについてと前歯の磨き方について 3年生 歯垢とみがく順序について 4年生 噛むことの大切さについて	学級活動	担任 歯科衛生士 養護教諭
	・学童歯磨き大会、歯のお話会特集の紹介	保健だより	養護教諭 担任
7	・歯みがきチェック（染め出し）	給食後委員会活動	児童保健委員会
	・生活リズムチェック事後指導	保健だより	養護教諭 担任
夏休み	・夏休みの歯みがき実態調査 全校児童	歯みがきカレンダー	保護者 担任
	・家族で歯みがきチェック	家族カラーテスト	保護者 担任
8	・歯肉のチェック 5・6年生	体重測定後 学級活動	担任 養護教諭
	・歯みがきチェック（染め出し）	給食後委員会活動	児童保健委員会
9	・夏休み後の生活リズムチェック振り返り	保健だより	養護教諭
	・歯みがきパーフェクト児童の表彰	全校集会	養護教諭
	・歯みがきチェック（染め出し）	給食後学級活動	児童保健委員会
	・ミニブラッシング教室（染め出し）（4～6年生）	給食後学級活動	学校歯科医 担任 養護教諭
	・家族で歯みがきチェック（4～6年生） ～歯鏡を使用した詳細なみがき残しチェック～ ・歯みがき強化日（1～3年生）	家族カラーテスト	保護者 担任 養護教諭
	・児童・保護者の歯みがき意識調査	調査	養護教諭
	・歯肉のチェック 5・6年生	給食後学級活動	担任

10	・歯科検診時の歯みがき指導（学年毎）	検診後学級活動	学校歯科医 担任 養護教諭
11	・1・2年生歯みがき教室 むし歯とむし歯予防の話、ミュータンス菌、ブラッシング指導、染め出し ・3・4年生歯みがき教室 むし歯予防の話（酸につけた卵とフッ素塗布）、ミュータンス菌、ブラッシング指導、染め出し	低・中学年 学級活動	学校歯科医 担任 養護教諭
	・歯のお話会 5年生 歯肉炎予防のためのブラッシングとデンタルフロスと歯肉のチェック 6年生 歯の役割と大切さ、自分の歯並びにあった磨き方とデンタルフロスと歯肉のチェック	高学年 学級活動	歯科衛生士 担任 養護教諭
12	・歯科指導へ協力とお礼	PTA 研修会	養護教諭
	・歯磨き教室、歯のお話会特集の紹介	保健だより	養護教諭
	・ミニ歯みがき指導 クラス毎 歯肉炎、歯垢、むし歯、C oを理解し、自分の歯のカルテを見て、弱点を考え、自分の歯みがきを見直す。	体重測定後 保健指導	養護教諭 担任
	・歯のクイズ	朝の会学級活動	保健委員会の児童
	・冬休みの歯みがき実態調査 全校児童	歯みがきカレンダー	担任
	・講話及び表彰 歯と口の健康について	全校朝会	校長
冬休み	・歯みがきチェック（染め出し）	家族カラーテスト	保護者 担任
1	・歯みがきパーフェクト児童の表彰	全校集会	養護教諭
2	・歯みがきチェック（染め出し）ペア磨き	給食後委員会活動	保健委員会の児童
	・歯みがき川柳	委員会活動	保健委員会の児童

<成果>

- ・学童歯みがき大会では、歯肉炎の観察や症状を理解するだけでなく、実際に復習ドリルを継続して活用することで、歯肉炎予防への意識が高まりつつある。また、デンタルフロスを実際に使うことで、知識も深まり、普段の歯みがきでの活用につながった。歯科衛生士の指導で、デンタルフロスの使い方や種類を学び、むし歯予防の発見につながることも学ぶことができた。
- ・歯科検診の結果を中心に、歯のお話会でワークシートに記入することで、自分の口の中の状態を理解するだけでなく、自分の口の中の様子を知ること、歯の磨き方や治療へ働きかけることができた。また、体重測定後のミニ指導の中で、自分の口の中の様子を再確認するために、個人カルテを作成し活用した。何度も話題にすることで、治療に行く必要があるのかを自覚させることができた。
- ・長期休業中における歯みがきカレンダーを活用することで、三回みがきへの意欲を持たせ、パーフェクト磨きの児童を表彰することで、三回みがきへの意欲を高めることができた。
- ・歯科検診時や、高学年のミニブラッシング教室、歯みがき教室において、個別に、あるいは学年毎に、みがき残しの多い場所やみがき方の指導をしていただいたことで、より自分のみがき方の確認をすることができ、歯みがきに対する意識を高めることができた。
- ・歯みがき教室（歯科医）や歯のお話会（歯科衛生士）による指導を受けることで、自分の口の中を見つめ直すよい機会となった。6月に実施してから期間があいていたので、11月に実施したことで、再確認するよい機会となった。

<課題>

- ・むし歯の治療を呼びかけてきたが、治療しない家庭もあり、継続的に家庭への啓発が必要である。また、家庭による歯と口の健康への意識の差が大きいことを感じた。
- ・給食の遅い児童は、歯みがきが十分にできない。
- ・保護者の仕上げみがきは、低学年までで終わることが多く、その後、歯垢や歯肉の状態が悪くなりやすいので、仕上げみがきの習慣化へつなげる必要性を感じた。
- ・歯みがきソングでの歯みがきを推奨してきたが、みがく部位がまちまちになるので、みがき残しのないみがき方をするために、曲等の検討が必要である。

3 保健指導（個別指導）

月	内 容	指導形態	指導者
4	第1回歯科検診 治療の勧め①	個別指導	養護教諭
5	ハイリスク児童のブラッシング指導 ・歯ブラシの持ち方、歯ブラシの大きさ、みがく順序、染め出し、鏡での確認	給食後 個別指導	養護教諭
7	治療状況の確認及び治療の勧め②	個別懇談時 個別指導	養護教諭 担任 養護教諭
8	治療状況の確認	用紙配付	養護教諭
9	ミニブラッシング指導（4～6年生） ・学校歯科医がその場で指導	給食後 個別指導	学校歯科医 担任 養護教諭
10	第2回歯科検診 ・学校歯科医がその場で個別指導 ・治療状況の確認及び治療の勧め③	給食後 個別指導	学校歯科医 担任 養護教諭
	・ハイリスク児童のブラッシング指導（5回） 1 ① 歯ブラシの持ち方（鉛筆持ち） ② 音楽に合わせて順番を考えてみがいたか ③ 鏡で確認してみがきなおしたか ④ すみずみまでいねいにみがいたか ⑤ 昨日の夜・今日の朝・給食後の3回みがいたか ⑥ 歯ブラシの向きを考えてみがいたかをチェックする。 2 染め出しをして赤いところをブラッシング、鏡での確認 3 反省を書く 合格した回で終了	給食後 個別指導	養護教諭
11	歯みがき教室（1～4年生） ・学校歯科医がその場で個別指導	個別指導	学校歯科医 担任 養護教諭
12	治療状況の確認及び治療の勧め④	個別指導	養護教諭
1	治療状況の確認	個別懇談時 個別指導	養護教諭
2	治療状況の確認及び治療の勧め⑤	個別指導	養護教諭

児童の感想より

- ・ぼくは、前歯のねっこと歯肉を一緒にみがきました。奥歯は王様磨きでみがきました。鏡を見てみがきたいです。
- ・赤いところが少なくなってきたので、この調子で赤いところが少なくなるようにしたいです。そのために、歯ブラシの向きをかえながらみがきたいです。
- ・歯ブラシが歯に当たっているか確認しながら、みがきました。

保護者より

- ・最近、家でもずいぶんおりに仕上げみがきをさせてくれるようになったし、成長しました。これからもがんばって歯を大切にしてください。

- ・歯みがきは、本当に難しいです。この染め出しをやって覚えたことを頭に入れてみがいてほしいです。むし歯無しを目指して。
- ・赤くなっているところに気をつけて、いつもみがけると良いですね。仕上げみがきでも気をつけて、ていねいに磨くようにします。次は、ピカピカの歯になるようにがんばろう。

ハイリスク対象者 今年度の検診結果より

定 義	1年	2年	3年	4年	5年	6年
未処置歯3本以上	3	3	3	3	0	0
歯垢の状態 2	0	1	3	1	3	1
歯肉の状態 2	0	0	1	0	0	0

<成果>

- ・個別に染め出しを行うことで、歯ブラシの持ち方や歯ブラシの向き、みがく順番など、鏡を見ながら汚れを確認し、自分の磨き方を見直すことができた。

<課題>

- ・自分の口の中を確認することで、自分の歯みがきを見直すことができたが、実践の継続化が難しいと感じた。

(3) 2回目の歯科検診とミニブラッシング指導（4～6年生）と歯みがき教室（1～4年生）

- ・春の検診後の結果をふまえて、丁寧に検診していただいた。事前に、学年毎の検診結果によるブラッシング指導を依頼したことで、個別に、学級毎に、みがき残しの多い場所の歯ブラシの当て方を模型で示しながら、ブラッシング指導も行っていたことができた。
- ・年間計画の他にも、ミニブラッシング指導を依頼し、給食後の歯みがきの様子を見ていただき、染め出し後に個別の指導をすることができた。
- ・歯みがき教室においても、染め出し後の個別指導をしていただくことができた。

<成果>

- ・歯科検診時や、高学年のミニブラッシング教室、1～4年生の歯みがき教室において、個別に、あるいは学年毎に、みがき残しの多い場所や磨き方の指導をしていただいたことで、より自分の磨き方の確認をすることで意識を高めることができた。
- ・中学年では、染め出し後にみがき始めた時間と、ブラッシング合格までの時間を計測することで、歯みがきにかかる時間を振り返ることができた。
- ・歯みがき教室に、未治療児童の保護者に参観していただくことができた。

<課題>

- ・個別指導の重要性を再認識したが、時間の調整の工夫や指導者の力量を高める必要がある。

4 成果と課題

- 何度も染め出し等を繰り返し実施することで、自分の歯みがきを見つめ直し、自分の口の中の弱点を押さえ、自分の口の中に対する意識へとつなげることができた。
- ワークシートに保護者欄を設けるなど、家庭との連携により、歯や口腔の健康に対する意識が高まりつつある。また、仕上げみがきに対する意識の高まりを感じることもできた。
- 児童や保護者の意識調査の結果等から、課題点を次年度の計画につなげていく必要がある。
- C、Co、×、C0-s、○、歯垢の付着や歯肉炎への理解は深まってきたが、歯垢を落とすための、ていねいなブラッシング、「みがいた」から「みがけた」と言える歯みがきを目指す。
- 少人数のよさを最大限に活かすため、より一層きめ細やかな支援を行えるような職員の協力が不可欠である。

1 生徒の歯・口腔の実態（検査者700人）

4月の定期検診において、「未処置歯あり」26%（184人）、「歯肉の状態2」6%（41人）、「歯垢の状態2」6%（40人）という結果で、本校は歯科の健康課題をかかえる生徒が非常に多い。

歯みがきに関する実態調査

2 歯みがきの実態調査

本校では、以前から入学時は「未処置歯あり」の生徒が少ないのに、学年が進むにつれて増加していく傾向があった。手洗い場が教室近くにあったのも一要因と考えられるが、中学時は昼食後に歯を磨いていた生徒も多かった。そこで、高校には手洗い場が少ないということで、平成24年度PTAや学校医等の協力を得て手洗い場が増設された。さらに平成25年度トイレの改修工事とともに手洗い場を整備し、昼食後に歯みがきをするための環境はやや改善された。

本年度6月に歯みがきに関する実態調査を実施し、右表のような結果を得た。昼食後の歯みがきについて、中学時は44.1%の生徒が磨いていたが、高校では4.4%と1/10に減少していた。また「磨かない理由」として①「歯ブラシがない」②「時間がない」③「場所がない」であった。こうした実態を踏まえ、昼食後の歯みがきを保健だよりや委員会活動を通じて啓発活動をすすめてきた。

中学 歯みがき	起床後	22.8(%)
	朝食後	81.4
	昼食後	44.1
	夕食後	23.0
	就寝前	77.7
高校 歯みがき	起床後	28.8
	朝食後	76.4
	昼食後	4.4
	夕食後	23.6
	就寝前	78.2
昼休みに磨かない理由	時間がない	39.7
	場所がない	34.2
	面倒くさい	20.1
	歯ブラシがない	63.0
	恥ずかしい	6.1
	磨こうと思わない	21.4
	忘れる	3.8

3 取り組みの内容

指導の機会	放課後、昼休み
指導形態	個別指導、保護者へ文書配付、保健だより
指導者	学校歯科医、歯科衛生士、養護教諭
指導内容	<p>①9月 歯みがき実態調査を踏まえて昼食後の歯みがきの勧め、保健だよりの配付、学級担任、部顧問への協力をお願い</p> <p>②9月 歯科検診で歯肉の状態2、歯垢の状態2の生徒対象に歯肉炎予防への説明とDVD「ストップ歯周病」の視聴、保護者用文書の配付</p> <p>③9月 希望者対象に学校歯科医・歯科衛生士によりブラッシング指導</p> <p>④10月 養護教諭による個別指導</p> <p>⑤11月 学校歯科医による2回目の歯科検診・指導</p>

4 生徒の意識や行動の変容

ハイリスクアプローチの対象者が多数のため、歯垢の状態2と歯肉の状態2の生徒とし、すでに受診し治療した生徒を対象から除いたところ、対象者は45人であった。その中で9月のブラッシング指導の希望者は20人であった。本校にとって初めての試みで大変不安に感じていたが、学校歯科医、歯科衛生士3名が、一人ひとりの歯の汚れを検査し「口腔管理票」に記入、生徒に鏡を持たせ自分の歯の汚れを見させて、歯ブラシを使っての歯みがき指導を行った。生徒自らが自分の歯を手鏡で見ることでより歯に関心をもち丁寧に磨いている姿が見受けられた。また、歯石と言われても歯石の意味が分からない生徒も複数いたが、歯石は歯みがきでは除去できないことを指導され、受診に至った生徒も5人いた。ブラッシング指導をきっかけに昼食後に歯みがきをするようになった生徒が1人いた。

11月の2回目の歯科検診の出席者は10人であったが、「歯がきれいだ」と学校歯科医に言われた生徒が2人いて、うれしそうであった。また多くの生徒が「指摘された箇所を入念に磨くようになった」「前より長い時間歯を磨くようになった」と感想を書き、その後の歯みがき行動に向上がみられた。

5 成果と課題

昼食後の歯みがきについて、特別棟のトイレの手洗い場や運動系部活動の生徒が格技場の前の手洗い場で歯を磨いている光景を目にするようになった。今後も、学級担任、部顧問をはじめ学校全体で生徒の歯科保健の指導に取り組み、昼食後の歯みがきをすすめていきたい。

ハイリスクアプローチ対象者が多数であったため、希望者を対象としたが、希望した生徒は以前から自分の歯について関心をもっていただけのため、ブラッシング指導にも熱心に取り組み効果もあった。しかしハイリスクアプローチ対象者でもブラッシング指導を希望しない生徒が多数おり、いかに歯科衛生士への意識を高めるかという課題が残った。

今回ハイリスクアプローチ指導に取り込むことで、忙しい中、学校歯科医、歯科衛生士の方々の協力を得てブラッシング指導や2回目の歯科検診を実施することができた。「歯科検診では時間に追われ指導の時間を割くことはできないが、少人数の対象者にじっくりと指導ができた」とうれしい言葉もいただい、今後も継続してこうした機会がもてるとよいと思う。

「学校歯科医によるブラッシング指導」



1 保健指導（集団指導）

内容は学校歯科医と協議の上で決定し、養護教諭が行う。

小学部1年

ア 実施時期 10月

イ 内容 みがき残しなく、歯みがきをしよう

- 1 染め出し液を使ってみがき残しを調べる
- 2 歯みがきの練習

ウ 成果 染め出し液でみがき残しを確認することで、児童の一人一人の歯みがきの特性を知ることができ、担任が毎日行う仕上げみがきに生かすことできた。また、歯みがきは嫌なものではなく、楽しくできるような工夫も検討、実践することができた。

中学部1年

ア 実施時期 10月

イ 内容 みがき残しなく、歯みがきをしよう

- 1 むし歯になる理由を知る
- 2 むし歯とおやつを知ること

ウ 成果 むし歯になりやすいおやつやなりにくいおやつを知ったり、おやつの食べ方を知ったりすることに興味をもつ生徒がみられた。また、むし歯にならないために歯みがきを続けることや、定期的に歯科受診することを確認することができた。学んだことを保護者にも伝え、家庭での歯みがきにも協力を得ることができた。

職業コース1～3年

ア 実施時期 11～12月

イ 内容 歯肉炎を予防する歯みがきの仕方

ウ 成果 歯肉の場所を確認し、歯肉の中には歯の根と顎の骨があることなどを、模型を使って示し、歯肉の役割を学ぶことで、歯みがきの大切さを知ることができた。

2 保健指導（個別指導）

職業コース2年

ア 実施時期 11～12月

対象者数 3名

イ 内容 給食後のブラッシング指導、歯科受診指導

ウ 成果 歯肉の状態が2から1または0にまで改善された。

3 学校歯科医における保健指導

小学部1年

ア 実施時期 10月

対象者数 児童25名、保護者25名

保護者の参加 有

イ 内容 子どもの実態に合わせた歯のみがき方を知り、学校と家庭が連携して歯みがきを行えるようにする。

- 1 みがき残しをしている部位を知る
- 2 保護者が適切な歯みがきの方法を知る
- 3 保護者からの疑問や質問に対して歯科医から回答いただく
- 4 保護者と担任で歯みがき方法の工夫などを共有する

ウ 成果 保護者が疑問に思っていることを丁寧に回答していただくことができ、保護者の口腔内の衛生管理についての意識が高まった。

高等部3年

ア 実施時期 12月

対象者数 25名

保護者の参加 無

イ 内容 卒業後に向けて歯みがきの意識を高める

- 1 むし歯ができる原因を知る
- 2 歯肉炎について知り、予防について考える
- 3 歯みがきの仕方について知る

ウ 成果 不健康な歯肉の状態や、むし歯の写真をみて、歯みがきの必要性がわかり「きれいな歯になりたい」と感じることができる生徒がみられた。卒業に向けて、自分の歯は自分で守る意識をもつことができた。

<全体を通して成果と課題>

今回、3名の生徒に対して、保護者に協力をいただき歯科受診での歯石の除去、また養護教諭による毎日のブラッシング指導、定期的な染め出し検査等を行う中で、歯肉に変化がみられた。当校の職業コースの生徒に関しては、自分で意識をして歯みがきをすることができるため、歯みがき教室の中で意識を高め、毎日のブラッシングにつなげることができた。また、口腔内の状態を写真に残し、視覚的に提示をすることで、生徒の意識をより高めることができた。モデル校として、1年間の取組を行ってきたが、継続して支援、指導していく必要があると感じ、今後も継続して支援を続けていきたいと考えている。



1 保健指導（集団指導）

内容は学校歯科医と協議のうえで決定し、養護教諭が行う。

ア 実施時期、対象者数

【実施日】 平成29年7月13日（木）

【対象者】 学校活性化委員（9名）

イ 内容「やってみよう！だ液で虫歯の予防テスト」

委員会活動でRDテストを実施し、おやつを選び方について意見交流しながら掲示物を作成して、全校に啓発した。

ウ 成果

RDテストを実施することで、まず自分の口の中に対する興味関心が高まった。また、いつも自分たちが食べているお菓子について、みんなで意見交流しながら掲示物を作成でき、それを全校へ啓発することで、歯を健康に保つために各自で取り組めることを考えることができた。

2 保健指導（個別指導）

ア 実施時期、対象者数、保護者の参加の有無

【実施日】 <小学部>平成29年6月22日（木） <中学部>6月29日（木）

<高等部>7月13日（木）

【対象者】 全校児童生徒60名（保護者の参加については希望される保護者のみ参加していただいた。今年度は小学部で1名参加）

イ 内容 「歯みがき教室」

歯科衛生士より個別に歯みがき方法や口腔ケア、口腔マッサージの指導を受けた。中学部の一部のクラスでは「歯の健康講話（劇仕立て）」を実施した。

ウ 成果

いつもの歯みがき方法や口腔ケア等で不足している部分や今後の課題などについて、専門職である歯科衛生士より、実践に結びつくご指導やご助言をいただくことができ、今後取り組む課題が明確になった。

3 学校歯科医による検診及び保健指導

ア 実施時期、対象者数

【実施日】 平成29年10月26日（木） 予備日 11月9日（木）

【対象者】 ・第1回歯科検診で歯垢の状態が1の児童生徒
・第1回歯科検診で歯肉の状態が1の児童生徒
・第1回歯科検診で未処置歯のある児童生徒 計26名

イ 内容 「第2回歯科検診」（第1回検診結果との比較を行う）

ウ 成果

第2回歯科検診の実施にあたって、保護者に検診の目的や歯科受診について、事前に伝えていくことができた。また、第1回歯科検診後に有所見者へ受診勧告をし、夏休み中に受診した児童生徒は数名いたが、まだ受診していない児童生徒について、学校歯科医から再度ご指導と受診勧告をしていただけたのでよかった。

項目	評価	人数	合計
未処置歯あり（人数）		6人 → 4人	4人
歯垢	◎	1→0（8人） 0→0（15人）	23人
	○	0人	0人
	×	1→1（3人）	3人
歯肉	◎	1→0（7人） 0→0（6人）	13人
	○	0人	0人
	×	1→1（13人）	13人

学校歯科医による第2回歯科検診結果をみると、歯垢の状態はほとんどの児童生徒が良くなっている。しかし、歯肉に関しては、抗てんかん薬を服用している児童生徒が多いため、副作用の影響もあって対象者26人中13人に変化がなく評価「×」であった。継続的にブラッシング指導を行い、現状維持できるように努めていきたい。

<全体を通して成果と課題>

- 保健指導については、委員会活動も歯みがき教室も能動的な活動や実験を取り入れたので児童生徒の興味関心を高めることができ、生活の中で歯を健康に保つために取り組んでいく課題が明確になった。
- 定期健康診断時に未処置歯が複数本あり、歯みがき教室の際にも歯科衛生士に口腔内の状態を確認していただいた上で本人に受診を勧め、また、歯の健康についても保健指導ができたことで、夏休み中に歯科受診し、すべての未処置歯の治療が完了できた。歯みがき教室での指導内容について、担任から保護者へしっかり伝えていただけたこともよかった。また、第2回歯科検診でも、学校歯科医にすべての未処置歯の治療が完了していることを確認していただいた。
- 学校歯科医による第2回歯科検診では、第1回歯科検診結果と比較し、時間をかけて、該当の児童生徒の口腔内の状態を診ていただき、ご指導をいただくことができた。第2回歯科検診の結果、前回より口腔内の状態が良くなっている児童生徒が多く、また、未受診者に対しても再度勧告することができ、よい機会となった。
- 当校の児童生徒は抗てんかん薬（デパケン、マイスタンなど）を服用している児童生徒が多く、副作用として歯肉炎になりやすいため、歯肉1～2の児童生徒が多い。歯みがき教室や学校歯科医による歯肉炎予防指導やブラッシング指導の充実が課題である。
- う歯があるが、歯科受診に恐怖心があったり、また家庭に事情によりなかなか受診されなかったりした場合の対応について、どのように保護者へアプローチしていくか、検討が必要である。

1 保健指導（集団指導）

ア 実施時期 6月 体重測定又は歯科検診前に実施

イ 内容 紙芝居又は絵本を使用

3歳 歯磨きの大切さを知る。

4歳 なぜ虫歯になるのかを知り、歯磨きの大切さを知る。

5歳 歯の大切さを知り、進んで歯磨きができる。

6歳 白歯を知り、王様磨きで磨こうとする。

ウ 成果 指導後には、3歳児は、食べたらずら磨こうとしていた。5歳児は、乳歯が抜けたことを嬉しそうに話したり、6歳白歯が生え始めていて、王様磨きをしたりするなど、自分の歯に対しての意識を高めていた。永久歯や6歳白歯が虫歯になりやすいことを話すことで、しっかり磨こうとする姿があった。

指導後には、「歯磨きカレンダー」を実施し、歯磨き習慣の定着を図った。

2 保健指導（個別指導）

ア 対象者数 3歳児（25名）は、5月下旬より毎給食時後

実施時期 4歳児（22名）・5歳児（27名）は、4月から毎給食後

イ 内容 大型の歯の模型を使い、養護教諭と一緒に磨く。1か所20回を目安に数を数えながら行う。3歳児は初めてなので「こんにちは」「さようなら」の歯ブラシの持ち方を知らせながら磨く。

ウ 成果 給食を食べ終わった子から、個別に一緒に磨くことで持ち方や磨く場所を丁寧に教えることができた。手洗い場に養護教諭が出向き、全員の歯磨きを見守ると共に磨き方を確認、個に合わせた指導・助言ができた。

3 学校歯科医における保健指導

ア 実施時期・対象者数・保護者の参加の有無 無

※学校歯科医による保健指導は行っていないが、歯科衛生士による5歳児親子歯磨き教室を実施した。歯垢染め出しを実施することで、どこが磨けていないか親子で把握し、今後の歯磨きをする参考にしたり、保護者の仕上げ磨きのコツを歯科衛生士から教えていただいたりすることができた。

<全体を通して成果と課題>

検診や「いい歯の日」など機会を捉えて保健指導（歯科）を行ってきた。歯に対する関心はどの学年もあるが、年齢が上がるごとに虫歯の保有率が上がってくる。自ら磨こうとする反面、保護者の仕上げ磨きがしっかり行っていないこともある。自分で磨くことの意識は大切であるが、歯に合わせて1本1本丁寧に磨くことで、「磨けている」ように個に応じて、指導していきたい。



4. まとめ

《疾病ハイリスクアプローチ後の変容》

年2回歯科健康診断を実施した学校の報告は、下記の表のとおりである。

疾病ハイリスクアプローチの取組をした後の健康診断の結果、歯肉・歯垢の状態が改善している児童生徒が、70%以上いた。

項目	評価	A校	B校	C校	D校	E校	F校	合計	
歯垢	◎(2段階向上)or O	0	26	5	2	11	6	50	41.7%
	○(1段階向上)	0	0	4	3	2	0	9	7.5%
	△(現状維持)	0	7	7	4	8	1	27	22.5%
	×(悪化)	0	28	3	1	2	0	34	28.3%
歯肉	◎(2段階向上)or O	51	45	17	3	9	4	129	70.1%
	○(1段階向上)	0	0	0	2	2	0	4	2.2%
	△(現状維持)	10	8	0	5	12	3	38	20.7%
	×(悪化)	4	8	1	0	0	0	13	7.1%
歯石	◎(改善)or O	0	0	0	6	7	0	13	76.5%
	△(現状維持)	0	0	0	4	0	0	4	23.5%

口腔衛生委員会では、平成23年度より児童生徒の口腔衛生の向上を目指して、疾病ハイリスクアプローチモデル事業を行っている。今年度は、幼稚園から高等学校、特別支援学校までのモデル校を選定したため、今まで以上に幅広く取組の検討ができた。

ハイリスクアプローチモデル校では、児童生徒の自主性の向上、地域・家庭との連携による歯科保健活動の定着等の一定の成果がみられ、口腔衛生の水準向上に効果がある手応えを感じている。下記に校種別に取組事例をまとめたので、参考にさせていただき、県内の学校に歯科保健活動の取組が広まることを期待している。

また、一方で、取組後に歯垢28%、歯肉7%前後の者が悪化していることも見逃せない。今後はその原因を考え、更なる効果的な指導の在り方について追究していきたいと考えている。

また、近年、日本スポーツ振興センター統計より、口腔の外傷が多いことが指摘されている。このことから、来年度は「口腔外傷の予防について」も考えていきたい。



《校種別 成果がみられた取組事例》

【幼稚園】

- ・集団指導を中心とした担任や養護教諭による園児への歯のみがき方指導
- ・親子歯みがき教室等を活用した、子どもの歯みがきの課題の理解
- ・保護者の仕上げみがきの重要性の理解及び実践

【小学校】

- ・歯科検診後に学校歯科医からの個別のアドバイスカードの配付

- ・学校歯科医による歯並びや歯垢を取り入れた個別のブラッシング指導
- ・歯みがき教室の参観による保護者への啓発
- ・児童会、異学年間交流等による啓発活動

【中・高等学校】

- ・学校歯科医等による、歯肉の改善目標の設定等を取り入れた科学的・分析的な指導
- ・担任、養護教諭、部活動顧問等による個別の取組（チェックカード）の見届け
- ・生徒会、総合的な学習の時間における施設訪問等による啓発活動

